

## ハンディキャップがある人用の椅子の製作で実績 きめ細かい製品対応で信頼を獲得

### 事業内容

### 座位保持装置・福祉用具メーカー オーダーメイド品でニーズに応える

1991年(平成3年)にハンディキャップがある人用の補装具(座位保持装置[椅子]、車椅子等)の製造・販売を目的に設立され、必要とされる製品を作り続けることによって、少しずつ組織として成長を遂げてきた。

重度のハンディキャップを持つ人たちは自力で座ることができないため、身体を支える必要がある。それを支えるのが座位保持装置であり、身体の傾きや変形、ハンディキャップを考慮して、ドクターやセラピストの指示のもと、ベストなものをお客様で製作している。

身体を測ったデータを基にNC加工機でウレタンを削りだし、座面と背もたれを成形。使用する人に応じて必要な機能を持ったフレームに載せて、仕上げていく。既成のフレームに合わない人の場合は、メーカーと共同で一から図面を引いて設計もする。介助、介護する人の使い勝手や使われる場面なども想定して製作を進めるため、使用する人の個性まで映し出した高品質なものとなる。

基本的には国や自治体からの補助を使つてのオーダーで、関西圏の特別支援学校、リハビリ施設、病院、個人宅に赴いて、営業を行っている。

### 補助事業

### 普段の生活場面で気軽に使える “安価で高機能”な座椅子の開発

疾病やハンディキャップによって市販の椅子では座位が取れない人は、推計約400万人に及ぶと言われる。介護保険では車椅子のレンタルは可能だが、椅子には適用されない。また、障がい者の制度では座位保持装置は対象となるが、軽度のハンディキャップでは対象にならないことが多い。

国の制度で解決できないのであれば、安価で自費購入が可能な座椅子にすることで、日常的に利用していただくと考えたのが、今回の開発の背景である。“安価”で“気軽”というコンセプトではあるが、安全面にはもちろん注意を払った製品に仕上げる。

開発にあたっては、同社が積み上げてきた「姿勢保持技術」を座椅子のシート形状に活かし、オーダーメイド型車椅子製作のノウハウを活かして軽量かつ強固なフレームを作成した。協力会社が開発した無段階ギアで、今までの座椅子の概念を変える使い心地を実現すべく開発を進めた。

### 成果

### 機能面では一定の成果 価格面で課題も

機能面では、転倒防止フレームを付けたことによって後方に転倒しにくい構造となり、後方へ倒れる心配がある人でも安心して座れる製品に仕上がった。さらに、無段階のギアを採用したことでカチャカチャという音がしなくなり、静かに角度調整ができるようになっていく。同社の椅子づくりのノウハウを活かし、クッションは体幹部分を支える構造とし、座面も立体的な構造にして、長時間座ることができる椅子となった。また、車椅子用のアルミフレームを採用していることもあり、軽々と持ち上げることができる。

このように機能面では一定の成果を出せたが、材質にこだわり、付加する機能がなくなったために販売価格が当初の想定よりも高くなってしまった。実際に販売実績も上がり、引き合いも数件あるが、今後の販売展開では価格の引き下げを検討しなければならないという。また、重度のハンディキャップがある人でも使えるように胸や腰に装着するベルトをオプションで付けるなどの販売方法も模索している。



### 今後の展開

### 来年には展示会への出展も 需要取り込みに注力

自費で購入できる、姿勢保持機能を有した座椅子とのコンセプトで開発を進めたものの、当初の販売予定額を1万円ほど上回る3万円が、現在の販売想定価格である。

当初は一般向けの市場での販売も視野に入れての価格設定だったが、想定より上がったことから、福祉用具、介護用品というカテゴリでの販売を中心に検討している。

ネットやカタログでの販売も検討中だが、実際に触って、座ってみて、違いが体感できる展示会での販売に力を入れていく方針である。具体的には、購入者が安心できるSGマーク等の基準試験に合格してから販売を想定しており、来年には展示会等に出展していきたいとしている。

販売個数が増えてくれば、サイズのバリエーションを増やすことも考えているが、当面は2サイズで在庫を持たず、受注生産方式で販売を進めていく。各業界団体への声掛けなども行い、同社製品が認知されていない企業へのアピールを積極的に進め、需要拡大を狙っていく。

本当に使える  
“道具づくり”に尽力

代表取締役社長 古橋 貴浩

ハンディキャップを持たれるお客様、ひとりひとりに合ったもの、また介護や介助をされる方々にも配慮して、日常生活で本当に使える“道具づくり”にこだわってまいりました。

今後も常に技術を向上させながら、お客様やその周囲で支える方々に寄り添った“道具づくり”をしていきたいと思っています。同時に「ひげ工房」の技術や考え方を引き継いでくれる若手人材の育成にも尽力していきます。



### 株式会社 ひげ工房

代表取締役社長 古橋 貴浩  
河内長野市上原西町9-3  
TEL : 0721-56-9696  
〈資本金〉10,000千円  
〈従業員〉10人  
<http://www.higekobo.co.jp/>

